

10/510031

## 特 許 協 力 条 約

P C T

## 国際予備審査報告

(法第12条、法施行規則第56条)  
〔PCT36条及びPCT規則70〕

REC'D 22 APR 2004

WIPO

PCT

出願人又は代理人 の書類記号 J F K R - 5 5 - P C T	今後の手続きについては、国際予備審査報告の送付通知（様式PCT/ I P E A / 4 1 6）を参照すること。	
国際出願番号 P C T / J P 0 3 / 0 4 2 3 2	国際出願日 (日.月.年) 0 2 . 0 4 . 2 0 0 3	優先日 (日.月.年) 0 4 . 0 4 . 2 0 0 2
国際特許分類 (IPC) I n t . C l <sup>7</sup> H 0 1 R 4 3 / 0 2 , H 0 1 R 4 / 0 2 , H 0 1 B 7 / 0 0 , B 2 3 K 1 1 / 0 0		
出願人 (氏名又は名称) 株式会社フジクラ		

1. 国際予備審査機関が作成したこの国際予備審査報告を法施行規則第57条（PCT36条）の規定に従い送付する。
2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で <u>5</u> ページからなる。  <input type="checkbox"/> この国際予備審査報告には、附属書類、つまり補正されて、この報告の基礎とされた及び／又はこの国際予備審査機関に対してした訂正を含む明細書、請求の範囲及び／又は図面も添付されている。 (PCT規則70.16及びPCT実施細則第607号参照) この附属書類は、全部で <u>                    </u> ページである。
3. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。  I <input checked="" type="checkbox"/> 国際予備審査報告の基礎 II <input type="checkbox"/> 優先権 III <input type="checkbox"/> 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成 IV <input checked="" type="checkbox"/> 発明の単一性の欠如 V <input checked="" type="checkbox"/> PCT35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明 VI <input checked="" type="checkbox"/> ある種の引用文献 VII <input type="checkbox"/> 国際出願の不備 VIII <input type="checkbox"/> 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 3 0 . 0 9 . 2 0 0 3	国際予備審査報告を作成した日 0 1 . 0 4 . 2 0 0 4	
名称及びあて先 日本国特許庁 (I P E A / J P) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員)  栗田 雅弘  電話番号 0 3 - 3 5 8 1 - 1 1 0 1 内線 3 3 3 2	3 K 8 8 1 3

## I. 国際予備審査報告の基礎

1. この国際予備審査報告は下記の出願書類に基づいて作成された。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に  
 応答するために提出された差し替え用紙は、この報告書において「出願時」とし、本報告書には添付しない。  
 PCT規則70.16, 70.17)

☒ 出願時の国際出願書類

- |                                     |         |        |                      |
|-------------------------------------|---------|--------|----------------------|
| <input type="checkbox"/> 明細書        | 第 _____ | ページ、   | 出願時に提出されたもの          |
| 明細書                                 | 第 _____ | ページ、   | 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの |
| 明細書                                 | 第 _____ | ページ、   | _____ 付の書簡と共に提出されたもの |
| <input type="checkbox"/> 請求の範囲      | 第 _____ | 項、     | 出願時に提出されたもの          |
| 請求の範囲                               | 第 _____ | 項、     | PCT19条の規定に基づき補正されたもの |
| 請求の範囲                               | 第 _____ | 項、     | 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの |
| 請求の範囲                               | 第 _____ | 項、     | _____ 付の書簡と共に提出されたもの |
| <input type="checkbox"/> 図面         | 第 _____ | ページ/図、 | 出願時に提出されたもの          |
| 図面                                  | 第 _____ | ページ/図、 | 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの |
| 図面                                  | 第 _____ | ページ/図、 | _____ 付の書簡と共に提出されたもの |
| <input type="checkbox"/> 明細書の配列表の部分 | 第 _____ | ページ、   | 出願時に提出されたもの          |
| 明細書の配列表の部分                          | 第 _____ | ページ、   | 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの |
| 明細書の配列表の部分                          | 第 _____ | ページ、   | _____ 付の書簡と共に提出されたもの |

2. 上記の出願書類の言語は、下記に示す場合を除くほか、この国際出願の言語である。

上記の書類は、下記の言語である \_\_\_\_\_ 語である。

- ☐ 国際調査のために提出されたPCT規則23.1(b)にいう翻訳文の言語  
☐ PCT規則48.3(b)にいう国際公開の言語  
☐ 国際予備審査のために提出されたPCT規則55.2または55.3にいう翻訳文の言語

3. この国際出願は、ヌクレオチド又はアミノ酸配列を含んでおり、次の配列表に基づき国際予備審査報告を行った。

- ☐ この国際出願に含まれる書面による配列表  
☐ この国際出願と共に提出された磁気ディスクによる配列表  
☐ 出願後に、この国際予備審査(または調査)機関に提出された書面による配列表  
☐ 出願後に、この国際予備審査(または調査)機関に提出された磁気ディスクによる配列表  
☐ 出願後に提出した書面による配列表が出願時における国際出願の開示の範囲を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった  
☐ 書面による配列表に記載した配列と磁気ディスクによる配列表に記載した配列が同一である旨の陳述書の提出があった。

4. 補正により、下記の書類が削除された。

- ☐ 明細書 第 \_\_\_\_\_ ページ  
☐ 請求の範囲 第 \_\_\_\_\_ 項  
☐ 図面 図面の第 \_\_\_\_\_ ページ/図

5. ☐ この国際予備審査報告は、補充欄に示したように、補正が出願時における開示の範囲を越えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c) この補正を含む差し替え用紙は上記1.における判断の際に考慮しなければならず、本報告に添付する。)

## IV. 発明の単一性の欠如

1. 請求の範囲の減縮又は追加手数料の納付の求めに対して、出願人は、

- ☐ 請求の範囲を減縮した。
- ☒ 追加手数料を納付した。
- ☐ 追加手数料の納付と共に異議を申立てた。
- ☐ 請求の範囲の減縮も、追加手数料の納付もしなかった。

2. ☐ 国際予備審査機関は、次の理由により発明の単一性の要件を満たしていないと判断したが、PCT規則68.1の規定に従い、請求の範囲の減縮及び追加手数料の納付を出願人に求めないこととした。

3. 国際予備審査機関は、PCT規則13.1、13.2及び13.3に規定する発明の単一性を次のように判断する。

- ☐ 満足する。
- ☒ 以下の理由により満足しない。

請求の範囲1-12は、長手方向に離隔した一对の電極によって導体の長手方向に長く延びた溶接を行うことを特徴とする、ケーブルの接続方法、ケーブル及びケーブルの溶接装置に関するものである。

請求の範囲13-17は、複数のコンタクトのそれぞれと接続される複数の心線導体を具備することを特徴とするケーブルに関するものである。

そして、これら2つの発明群が単一の一般的発明概念を形成するように関連している一群の発明であるとは認められない。

4. したがって、この国際予備審査報告書を作成するに際して、国際出願の次の部分を、国際予備審査の対象にした。

- ☒ すべての部分
- ☐ 請求の範囲 \_\_\_\_\_ に関する部分

## V. 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条（PCT35条(2)）に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

## 1. 見解

新規性 (N)

請求の範囲 1-17

有

請求の範囲

無

進歩性 (IS)

請求の範囲

有

請求の範囲 1-17

無

産業上の利用可能性 (IA)

請求の範囲 1-17

有

請求の範囲

無

## 2. 文献及び説明 (PCT規則70.7)

文献1: JP 10-80777 A (シーメンス アクチエンゲゼルシャフト),  
1998. 03. 31

文献2: JP 2-132783 A (株式会社東芝), 1990. 05. 22

文献3: JP 60-50079 B2 (田中貴金属工業株式会社, 田中ケミカル株式会社), 1985. 11. 06

文献4: JP 9-161936 A (矢崎総業株式会社), 1997. 06. 20

文献5: JP 7-153519 A (ザ ウィタカー コーポレーション),  
1995. 06. 16

文献6: JP 11-354215 A (松下電工株式会社),  
1999. 12. 24

請求の範囲1, 2, 4, 5, 7, 9に係る発明は、国際調査報告で引用された文献1及び文献2により、進歩性を有しない。文献1には、導体の長手方向に離隔した一对の電極(7, 9)により平板状の金属導体(15, 17, 21)を溶接する技術が記載されている。文献2には板状電極(4a', 4b')に荷重を加えながら溶接する技術が記載されており、このような溶接を行う際、変色部が適宜形成されることも、領域(5)の形成を考えれば、当業者には自明の事項である。

請求の範囲3, 6, 8, 10に係る発明は、文献1と国際調査報告で引用された文献3とにより、進歩性を有しない。文献3の第3欄第9-12行には、Auがろう材として働き合金層を形成することが示唆されている。

請求の範囲11, 12に係る発明は、文献1と国際調査報告で引用された文献4とにより、進歩性を有しない。文献4に記載された第2実施例は、一对の電極(8, 9)を接続部に移動当接させる溶接装置に係るものである。

請求の範囲13-17に係る発明は、国際調査報告で引用された文献5及び文献6により、進歩性を有しない。文献5の【0024】及び文献6の【0030】にはケーブルの心線導体とコンタクトとを溶接接続した点が記載されている。

## VI. ある種の引用文献

## 1. ある種の公表された文書 (PCT規則70.10)

出願番号 特許番号	公知日 (日. 月. 年)	出願日 (日. 月. 年)	優先日 (有効な優先権の主張) (日. 月. 年)
JP 2003-109708 A 「E X」	11. 04. 03	28. 09. 01	

## 2. 書面による開示以外の開示 (PCT規則70.9)

書面による開示以外の開示の種類	書面による開示以外の開示の日付 (日. 月. 年)	書面による開示以外の開示に言及している 書面の日付 (日. 月. 年)
-----------------	------------------------------	--